

T&D保険グループの 価値創造活動

- 10 中期経営計画の進捗
 - 10 T&D保険グループの目指す姿
 - 11 主要経営指標の進捗
 - 12 国内生命保険事業戦略
中核生保3社レビュー
 - 13 グループ資本政策(ERMの推進)
 - 14 安定的な株主還元を実施
 - 15 2016年3月期の取組み

T&D保険グループの目指す姿

国内生命保険市場の中でグループのプレゼンスのさらなる向上を目指し、T&D保険グループは2014年4月に、2016年3月までを計画期間とする「T&D保険グループ 中期経営計画 新たな挑戦(Try)と発見(Discover)～グループカの結集～」を策定しました。

本中期経営計画の2ヵ年(2014年4月～2016年3月)は、「金融危機後に回復させた高い利益水準を維持しつつ、安定的・持続的な成長に向けた基盤強化期間」として位置づけ、次なるステージへの飛躍を見据えて健全性の拡充、高い利益水準の維持を図っています。

本中期経営計画の主要方針は次の5点です。

- ▶ 持株会社のもと、異なるビジネスモデルを有する3つの生命保険会社が独自性・専門性を最大限発揮し、グループ企業価値の向上を実現
- ▶ コアビジネスである国内生命保険事業でのプレゼンス向上を最優先事項とし、成長を達成
- ▶ ERMのフレームワークに沿って、持続可能なビジネスモデルを強化
- ▶ コアビジネスである国内生命保険事業の成長性を強化・拡大することを目的に、提携・M&Aの機会を追求
- ▶ 将来的な国内生命保険事業の補完として、海外保険事業や周辺事業へ事業投資等を行い、中長期的な成長を志向

グループ全体戦略 ～グループ戦略の概念図～



主要経営指標の進捗

3つの主要経営指標のすべてにおいて、2カ年の中期経営計画1年目の成果として、非常に順調に進捗しています。

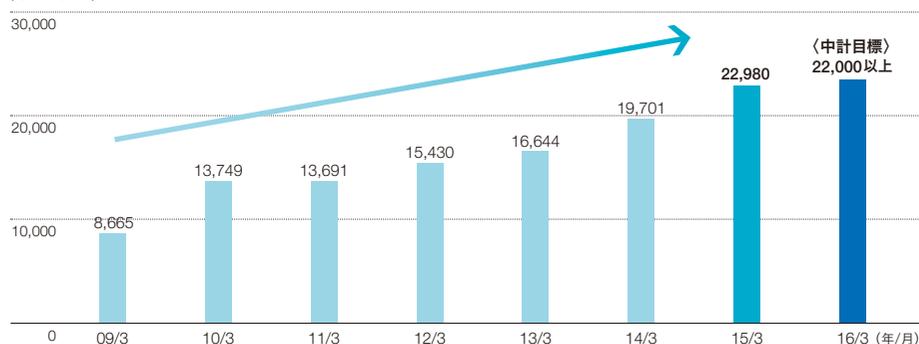
企業価値指標

目標

企業価値 (EV*1)

22,000億円以上

(単位：億円)



*1 EV (エンベディッド・バリュー):

修正純資産と保有契約価値を合計したもので、生命保険会社の企業価値、業績評価指標のひとつ。

*2 2009年3月期～2011年3月期はEEV、2012年3月期以降はMCEV (Group MCEV)。

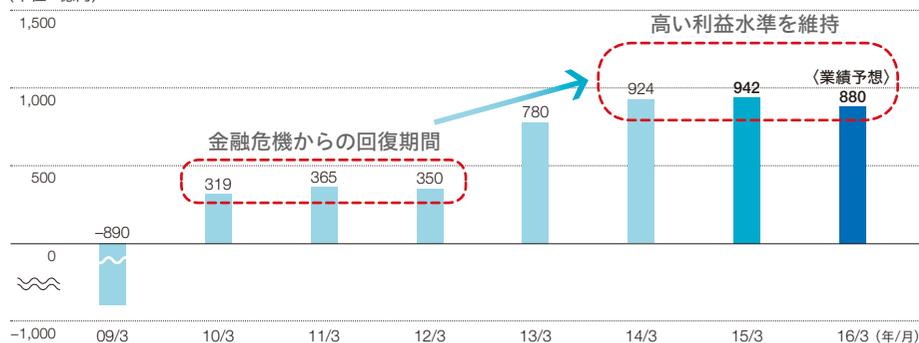
利益指標

目標

実質利益

770億円以上

(単位：億円)



*実質利益は、当期純利益に負債内部留保(危険準備金繰入額、価格変動準備金繰入額)のうち法定繰入額(税引後)を超過した額を加算して算出。

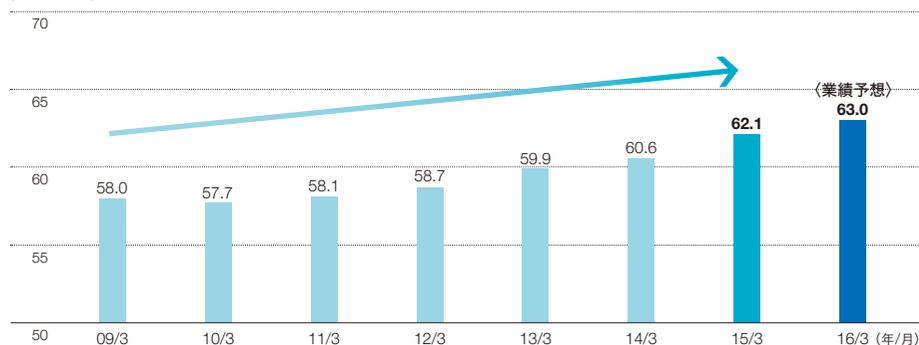
契約業績指標

目標

保有契約高

63兆円以上

(単位：兆円)



*保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプおよびTタイプを含む広義ベース。

国内生命保険事業戦略 中核生保3社レビュー

中核生保3社はそれぞれ特化した市場において順調な成果をあげています。

太陽生命

役割
EVと保有契約高の増大による 持続的な成長の追求

最優の生活保障をご家庭にお届けすることのできるビジネスモデルの強化

EV、保有契約高、第三分野の新契約年換算保険料など良好な結果となりました。

(P28 ビジネス概要を参照)

大同生命

役割
さらなる収益の安定性と 成長性の追求

“安定的・持続的な企業価値の向上”の実現に向けたビジネスモデルの強化

EV、保有契約高、就業不能保障の新契約高など良好な結果となりました。

(P32 ビジネス概要を参照)

T&Dフィナンシャル生命

役割
成長ポテンシャルの追求

安定した利益獲得が可能なビジネスモデルの強化

EV、一時払貯蓄性商品および平準払保障性商品の新契約高など良好な結果となりました。

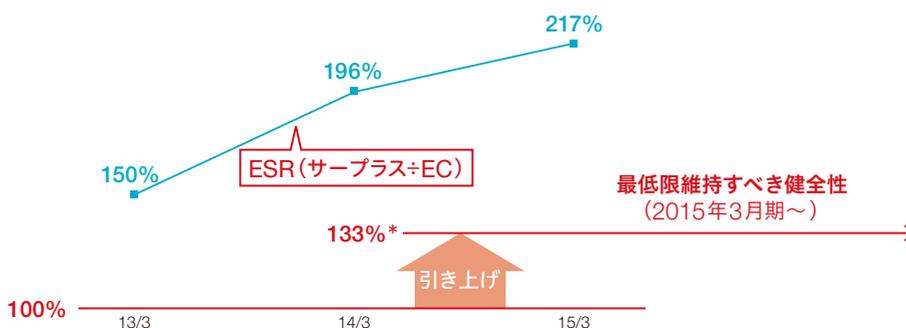
(P36 ビジネス概要を参照)

グループ資本政策（ERMの推進）

生命保険グループとして、資本十分性の確保を最優先するとともに、安定的に確保すべき目標水準を上回る資本効率性を確保しています。

資本十分性（ESR）

資本十分性については、2015年3月末現在でESR217%となり、高い健全性を確保しています。

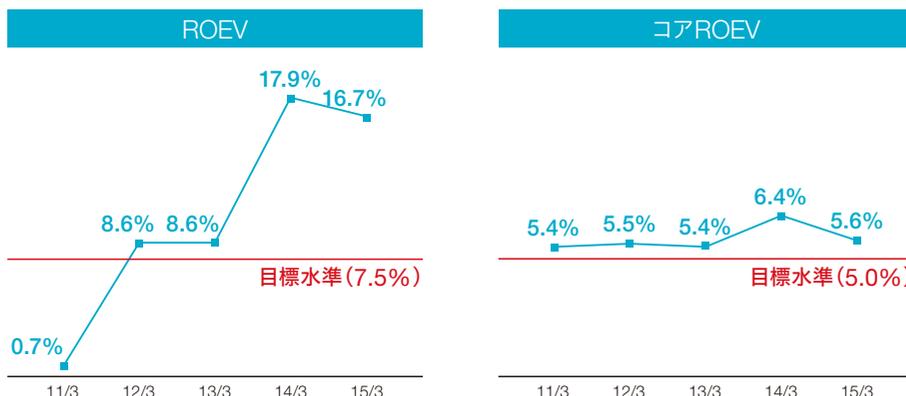


*ESR133%は、現在のリスクプロファイルを前提として、信頼水準99.93%のリスク量をカバーする水準

資本効率性 (ROEV、コアROEV)

資本効率性については、安定的に確保すべき水準として、ROEV*1は7.5%以上、新契約価値を中心とするコアROEV*2は5.0%以上という目標を設定しています。

・2015年3月期は、ROEV16.7%、コアROEV5.6%と、それぞれ目標水準を上回る資本効率性を確保しています。



*1 ROEVは、EV増加額（資本増減等を控除）/EVの平均残高

*2 コアROEVは、（新契約価値+リスクフリーレート部分の期待収益）/EVの平均残高

安定的な株主還元を実施

2015年3月期についても、安定的な「現金配当」と機動的な「自己株式の取得」を組み合わせ実施しました。
 現金配当は、1株当たり配当金25円、総額約166億円に据え置きましたが、自己株式の取得については前期比3倍の約300億円を実施しました。

この結果、2015年3月期の株主還元は、実質利益942億円に対して、約466億円となり、単年度の総還元性向は約50%、3年平均では約35%となっています。

株主還元実績

	13/3	14/3	15/3	
1株当たり配当金	22円50銭	25円00銭	25円00銭	
配当総額	151億円	168億円	166億円	
自己株式の取得	約30億円 ^(*1)	約100億円 ^(*2)	約300億円 ^(*3)	
株主還元総額	約181億円	約268億円	約466億円	
実質利益	780億円	924億円	942億円	総還元性向 (3年平均)
総還元性向	23%	29%	49%	35%

*1 2013年3月期決算に係る株主還元として、2013年5月に実施。

*2 2014年3月期決算に係る株主還元として、2014年5月～6月に実施。

*3 2015年3月期決算に係る株主還元として、2015年5月～7月に実施。

CBの活用

自己株式の取得資金の調達には、好条件での調達が可能なCB発行により実施し、調達資金(300億円)全額を自己株式の取得に充当しました。



2016年3月期の取組み

2016年3月期は、「基盤強化期間」と位置づけた現行中期経営計画の最終年度です。

主要経営指標(目標水準)の着実な達成に向け、グループの成長ドライバーである中核生保3社を中心にグループ一丸となって取り組みます。

主要経営指標(グループ連結)	目標水準 ^(※1)	2016年3月期見込み ^(※4)
企業価値(EV)	EV 22,000億円以上(2016年3月期末) (ROEV 7.5%を超える安定的・持続的な成長)	EV 22,000億円以上
利益(財務会計)	実質利益 ^(※2) 770億円以上(2016年3月期)	実質利益 880億円
契約業績	保有契約高 ^(※3) 63兆円以上(2016年3月期末)	保有契約高 63兆円

*1 金融環境等の外部環境の前提が設定時の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定。

*2 実質利益は、当期純利益に、負債内部留保(危険準備金繰入額、価格変動準備金繰入額)のうち法定繰入額(税引後)を超過した額を加算して算出。

*3 保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプおよびTタイプを含む広義ベース。

*4 実質利益と保有契約高は、2016年3月期通期業績予想の数値。